

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記4の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業、鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業、鳥獣被害防止対策促進支援事業(広域柵等鳥獣被害防止施設整備事業)の評価報告(令和5年度報告)

石川県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

被害防止計画は県内の全19市町が作成し、全ての市町でイノシシを対象としており、加えてサル、クマ、シカ、中型獣類、鳥類を対象としている地域もある。

2 事業効果の発現状況

いずれの地域においても関係機関で構成される協議会を設置し、被害防止計画の達成に向けた取組を行っており、関係機関が一体となった推進体制が整備されている。

協議会は地域全体の総合的な被害防止対策を行っており、捕獲檻の導入、緩衝帯設置などによる環境整備、侵入防止柵の設置等の物理的な対策と、被害防止対策研修会や集落点検等の地域の防除に対する意識向上の両面の取組を実施している。県は専門的な知識を持った人材の育成や被害が増加傾向の集落指導、集落ぐるみで被害対策を行うモデル集落の設置、イノシシの捕獲実績の少ない集落の指導等を行い、各協議会の活動を支援している。

以上のような取組により、関係者の情報共有や意識統一が図られ、集落ぐるみの被害対策の普及や侵入防止柵の適切な設置と維持管理、捕獲強化等につながっていると考えられる。

3 被害防止計画の目標達成状況

侵入防止柵の整備による被害防止対策と捕獲檻による捕獲強化対策を徹底したことで、各協議会においては被害防止計画の数値目標を達成。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価	
										被害金額(千円)			被害面積(ha)						
										対象鳥獣	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値				達成率
白山野々市鳥獣害防止対策協議会	白山市野々市	R3 ↓ R5	ツキノワグマ ニホンザル イノシシ ニホンジカ 中獣類 鳥類	①有害捕獲 ②ICT等新技術の活用 ③ジビエ利用の促進 ④緊急捕獲 ⑤その他(環境整備、研修会の実施、サル群の動向調査、モンキードッグによる追い払い)	①大型囲いわな(サル):3基 箱わな(クマ):2基 箱わな(サル):5基 小型箱わな(ハクビシン):4基 電気止めさし器:5本 捕獲ネット:1枚 ②発信機2個 ③消耗品(消毒液、マスク、ゴム手袋)の購入 ④イノシシ、シカ、サル R3:32頭、4頭、57頭 R4:116頭、5頭、132頭 R5:163頭、5頭、84頭	白山野々市鳥獣害防止対策協議会	-	-	イノシシ、サルによる水稻の被害が多発していたことから、猟友会が有害捕獲を行うとともに、集落の山際や田畑に侵入防止柵を設置。進入路となる場所に箱わなを設置。サル群の動向調査を基に地域住民やモンキードッグによる追い払いを行いつつ銃器・箱わなで捕獲しているほか、次年度の農作物被害を減少させるため大型囲いわなを9~11月に設置しサルを捕獲。これらの取組によりR2年度と比較するとイノシシの有害捕獲約23.6%増加、サルの有害捕獲約54.2%増加した。また、ジビエ利用についてはイノシシは豚熱による影響からR2は0件だったがR5では69件の利用件数がありこれはR元の47件からも大きく増加している。	ツキノワグマ	1,000	0	294%	4.2	0.0	333%	イノシシについては、農作物被害がR2年度と比べ3倍近く増加しており、原因としては豚熱の収束による頭数の増加が考えられ、また侵入防止柵の未整備箇所に被害が発生した。サルについては、R3年度以降毎年100頭以上を捕獲しているが、生息数の増加及び生息区域が拡大しており、群の動向調査を基に地域住民やモンキードッグによる追い払いや、猟友会による巡回捕獲、侵入防止柵設置の推進を実施。大型囲いわなを毎年購入・設置し、群れでの捕獲を行った結果、農作物被害がかなり減少した。	イノシシについては、被害が増加傾向にあるので今後も継続して侵入防止柵設置の推進や猟友会による捕獲活動に取り組むとともに、地域研修等を実施して集落ぐるみによる総合的な対策を推進する。サルについては、大型囲いわなによる捕獲数の増加から農作物被害が増加しているが、引き続き侵入防止柵の整備(市単事業)及び適正な管理、効果的な捕獲、生息環境管理を実施し、被害の低減を図っていく。	鳥獣被害の約5割をニホンザルによる被害が占めており、生息動向調査に基づき群単位での効果的な捕獲を実施したことから、被害金額・面積ともに被害防止計画の目標を達成した。イノシシについては、被害防止計画作成年度であるR2年度は、加賀地区で個体数が減少した時期であり、その後、増加傾向にあると考えられることから、農作物被害が増加しているが、引き続き侵入防止柵の整備(市単事業)及び適正な管理、効果的な捕獲、生息環境管理を実施し、被害の低減を図っていく。
										ニホンザル	2,500	0	306%	2.0	0.0	350%			
										イノシシ	1,500	6,142	-557%	1.2	6.2	-557%			
										ニホンジカ	0	0	0%	0.0	0.0	0%			
										中獣類	0	0	0%	0.0	0.0	0%			
										鳥類	0	0	0%	0.0	0.0	0%			
										計	5,000	6,142	53%	7.4	6.2	137%			
										河北郡市有害鳥獣対策協議会	かほく市内灘町津幡町	R3 ↓ R5	カラス、キジ、ムクドリ、アオサギ カモ類 ハクビシン、タヌキ、アナグマ ネズミ ツキノワグマ イノシシ ニホンジカ サル	①侵入防止柵の設置 ②有害捕獲 ③被害防除 ④緊急捕獲 ⑤その他(被害防止研修の開催)	①整備延長:電気柵L=96,300m ②箱わな(イノシシ):17基、捕獲檻用表示板1,530枚 ③デジタルテスター87基 ④イノシシ R3:447頭 R4:912頭 R5:675頭	河北郡市有害鳥獣対策協議会			
カモ類	2,000	2,947	59%	20.0	3	172%													
ハクビシン、タヌキ、アナグマ	0	0	0%	0.0	0	0%													
ネズミ	0	0	0%	0.0	0	0%													
ツキノワグマ	0	0	0%	0.0	0	0%													
イノシシ	203	3,885	-15808%	0.17	4	-18550%													
ニホンジカ	0	0	0%	0.0	3	0%													
サル	0	0	0%	0.0	3	0%													
計	2,503	6,832	-56%	20.4	13	146%													
石川県	-	-	-	①広域捕獲活動(有害捕獲) ②人材育成 ③ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組	-	-	-	-	①市町等を対象としたセミナーや説明会を活用し、生息状況調査の結果を市町等に提供することで効率的な捕獲につなげており、その結果、ニホンジカ及びイノシシによる農林業被害額が減少している。 ②継続的な人材の育成(講習会の実施、集落への専門家派遣)を実施。侵入防止柵の設置と併せて実施することで集落への対策の理解も進んでおり、イノシシ被害額は減少傾向。 ③イベント出展によるPR活動やジビエ商談会の開催などに取り組んだ結果、捕獲したイノシシのジビエ利用率は令和4年度6.8%から令和5年度は9.3%に増加した。								-		
										-									

注1:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

2:都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。

3:事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。

4:「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。

5:鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5 都道府県による総合的評価

イノシシによる農作物被害は、計画的な侵入防止柵の整備と適切な維持管理、効率的な捕獲の実施により、減少している地域があるものの、対策の実施に伴い、侵入防止柵の設置が進んでいない地域での被害が発生している。全県的に、被害が増加している集落で侵入防止柵の設置を進めるとともに、侵入防止柵と捕獲檻の実効性を高めるため被害集落での集落点検等の実施を継続する必要がある。また、被害対策の専門知識と技術を持ち、地域に即した継続的な指導体制が維持できる人材育成を強化する。